

平成28年度 第1回大阪府立豊中高等学校 学校協議会 議事録

○日 時 平成28年5月27日(金) 16:00~18:00

○出席者(敬称略)

委 員 西澤信善(東亜大学教授)、越智克司(豊陵会副会長)、大川雄司(P T A会長)、
岩元宏司(塾執行役員)

校 長 平野裕一

事務局 石田利生(教頭)、中川秀明(事務長)、上林卓也(首席)、朝倉 淳(首席)、
加田隆男(進路指導主事)、楠山百合(S E T)、奥田麻希(S G H研究開発委員長)、
城台祐樹(S G H研究開発副委員長)

1. 校長あいさつ
2. 自己紹介
3. 会長選出 互選により西澤氏を会長に選出
4. 会長代理選出 越智氏を会長代理に指名
5. 会長あいさつ
6. 協 議

(1) 平成27年度の進路状況について

進路希望については、3年生のほとんどが国公立大学を希望しており、約200人の生徒が難関国立大学をめざしている。現役生の進学先は、国公立大学が約30%、私立大学が約40%、約30%が浪人となっており、文系への進学は国公立大学より私立大学の方が多く、理系への進学は私立大学より国公立大学の方が多くなっている。学部別では、男子は工学部、女子は文・人文・外国語・国際学部への受験が多くなっている。

京大、阪大、神戸大学の現役合格者数については、66期生と68期はほぼ同数であるが、68期生は大阪大学が28名と大変多くなっている。大阪市大、大阪府大は増加傾向となっている。これら5大学への進学は過去10年でみると倍増となっている。

私立大学については、立命館大学が人気となっているが、関西学院大学の人気は年々低下傾向にある。

(2) 平成28年度学校経営計画について

文武両道を良き伝統としてさらにグローバルな人材を育てていきたい。中期的な目標として、「進路を切り拓く学力の育成」「国際舞台で活躍する人材育成」「教員の授業力等の資質向上に向けた取り組み」の3点を掲げている。

(進路を切り拓く学力の育成)

- ・受験勉強だけでなく、卒業後の進路も見極めて指導を実現させていきたい。

(国際舞台で活躍する人材育成)

- ・社会に貢献できる気概をもった人材を育てたい。
- ・TOEFL コースとして高度な4技能の養成を目標に掲げている。
- ・SSH 及び SGH 事業の推進

(教員の授業力等の資質向上に向けた取り組み)

・府立学校共通の課題であるが、ベテラン教員が大量退職を迎える時期にきており、中堅教員が少なく、経験年数の少ない教員が多くなっている。経験年数の少ない教員が活躍できるようにしたい。

(3) GLHS 事業、TOEFL 仕様の授業について

・昨年度の TOEFL iBT の結果 (対象 92 名) について、2 年次のステージ 2 の目標値 (iBT60 点以上が全体の 10%) は達成できたが、1 年次は目標値 (iBT40 点以上が全体の 30%) を達成できなかった。

この府教育庁の目標値は、3 年次には iBT80 点以上が 10%となっているが、iBT80 点というのはアメリカの大学に留学可能なスコアとなっており、相当困難な数値と認識している。

・本年度は 4 技能を使って英語力を伸ばしていくのが大きな目標であるが、受験も重要であるのでリスニング・リーディング力なども強化していきたい。

(4) SSH・SGH事業について

○ SSH事業については、文部科学省の事業で科学技術系人材の育成を目的にしている。予算的には 1 割程度の減となっており、本年度 SSH事業の指定を申請した府立学校はすべて認められなかった。本校のように SSHと SGHの指定を受けている高校は全国的にみても少ない。

本校においては、中高接続、高大接続、小学生を対象にしたサイエンスキッズなど科学技術系人材が地域の中核拠点となっていることが評価されている。本年度は理化学研究所などの研究機関とも連携する予定である。また、SGH事業で英語力を指導してもらえるので、SSH事業の海外研修にも役立つなど、SSHと SGH両方の指定を受けているのは強みとなっている。

○ SGH事業について、課題研究と豊高グローバルスタディーズが大きな柱で、本年度の予算は 730 万円となっている。本校の SGH事業は、イスラームを全面に出していることが特徴となっている。課題研究では校内・校外で発表する場をつくっており、海外でのフィールドワークも実施した。来年度はマレーシア・シンガポールでの海外研修を予定している。

○ 豊高グローバルスタディーズは、国際社会で自分の意思を伝えられる人材を育てることを目的に実施している。対象は、TOEFL コースの対象外である普通科の生徒も対象にしている。本校の特徴は、即興型英語ディベートであるが、これには英語の地力をつけていく必要があることから、準備型ディベートやプレゼンテーションなどのプログラムもあわせて実施している。費用のかかるディベート合宿への参加を募ったところ、多くの希望があるなど本取り組みにおける生徒の意欲は高い。

(5) その他

校長より 18 歳選挙権について豊中市と連携していくことやセンター入試が変更されることなどを説明。

【委員長から総括】

SSH・SGH事業など先生方も大変とは思いますが、学校も活性化していると感じられる。がんばっていただきたい。

○ 次回開催日について 議題を教科書選定とし、7月15日(金)16時から 以上